

答え合わせ・解説

問1	答え 1 十字軍	11世紀末、ローマ教皇の権威が高まった時期に、キリスト教の聖地エルサレムをイスラム勢力から取り戻すための軍事遠征が提唱されました。この遠征軍は十字軍と呼ばれ、中世ヨーロッパの政治や経済、さらにはイスラム文化との交流に大きな変化をもたらす要因となりました。
問2	答え 2 ナウマンゾウなどの大型の動物を追い、移動しながら生活していた。	旧石器時代は氷河時代とも重なり、日本列島が大陸と陸続きになる時期がありました。当時の人々は打製石器を用い、食料となるナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていました。土器の使用や定住生活が始まるのは、気候が温暖になった後の縄文時代からです。
問3	答え 2 インダス川流域ではモヘンジョ・ダロなどの都市遺跡が、黄河・長江流域では亀の甲羅などに刻まれた甲骨文字が見られる。	インダス文明は、計画的に整備された都市遺跡であるモヘンジョ・ダロやハラッパ、未解読のインダス文字が刻まれた印章などが特徴です。一方、中国文明（黄河文明など）では、漢字の原型となった甲骨文字や、高度な技術で作られた青銅器が特徴的です。
問4	答え 1 北方の遊牧民族による侵入を防ぎ、国土を防御するため	前漢の時代、中国の北方の草原地帯には強力な遊牧民族が活動しており、農耕定住社会である漢の領土へしばしば侵入を繰り返していました。漢の武帝などは、これに対抗するために万里の長城を修築・延長し、騎馬軍団による大規模な侵攻を食い止めるための軍事的な防衛線として活用しました。
問5	答え 2 ティグリス川とユーフラテス川の増水時期を予測する必要から、天文学が発達し、太陰暦や六十進法が生まれた。	メソポタミア文明は、不規則な氾濫を繰り返すティグリス川とユーフラテス川の流域で成立しました。そのため、農業の管理に不可欠な暦や数学が高度に発達しました。この地域で生まれたくさび形文字は、のちに周辺の民族にも広まり、西アジア全体の文化の基礎となりました。選択肢にある「ナイル川」はエジプト文明、「インダス川」はインダス文明、「黄河・長江」は中国文明に関する記述です。
問6	答え 3 旧石器時代	かつて日本には土器の使用以前の文化は存在しないと考えられていましたが、相沢忠洋による岩宿遺跡での発見によって、土器を使用する前の「旧石器時代」の存在が明らかになりました。この時代の石器は、石を打ち欠いて作った打製石器が中心です。
問7	答え 2 イスラム教勢力の支配下にあった聖地エルサレムをキリスト教徒の手に取り戻すこと	十字軍はローマ教皇の呼びかけに呼応したヨーロッパ諸国の王や貴族によって組織されました。主な目的はイスラム教勢力から聖地エルサレムを奪還することでしたが、遠征の過程で地中海東岸への進出や商業的利益の確保といった側面も持つようになり、西ヨーロッパ社会が外の世界へと拡大する契機となりました。
問8	答え 4 黄河流域におこり、亀の甲や牛の骨に文字を刻んで記録を残した。	殷は中国最古の王朝とされる国家で、黄河流域の肥沃な土地を背景に発展しました。占いに使われた文字は、のちに周辺諸国の文化にも大きな影響を与えることになります。他の選択肢は、それぞれエジプト文明、インダス文明、メソポタミア文明の特徴を説明したものです。
問9	答え 1 ナウマンゾウやオオツノシカなどの大型の獲物を追って移動しながら生活し、狩猟や解体には打製石器を用いた。	旧石器時代は氷河時代とも重なり、当時の人々は大型の動物を狩るために群れを追って移動を繰り返す生活を送っていました。そのため、獲物を仕留めたり解体したりするために、石を打ち欠いただけの鋭利な打製石器が活用されました。弓矢や定住生活、土器の使用は縄文時代、本格的な稲作や石包丁の使用は弥生時代の特徴であり、石包丁は磨製石器に分類されるため旧石器時代の説明としては誤りです。
問10	答え 3 政治や軍事などの重要な事柄を決定するための占いの記録	殷（商）の時代、王は神意を問う「占い」によって、戦争の成否や収穫の見通しなどの国政を決定していました。亀の甲羅や牛の肩甲骨に熱を加え、生じたひび割れの形によって吉凶を判断し、その結果を刻みつけたものが甲骨文字です。これは現在私たちが使用している漢字の直接の祖先にあたります。
問11	答え 3 殷の時代には、亀の甲羅や動物の骨に刻まれた甲骨文字が使われていた。	紀元前16世紀頃に興った殷（商）では、占いの結果などを記録するために、亀の甲羅や牛の骨に文字を刻みました。これが漢字の原型とされる甲骨文字です。シルクロードの開通や仏教の伝来は漢の時代の出来事であり、度量衡の統一や万里の長城の整備は秦の時代の政策です。
問12	答え 3 楔形文字 ― ハンムラビ法典	メソポタミア文明では、シュメール人が楔形文字を発明し、身近に得られた粘土を板状にしたものに記録を残しました。また、バビロニアのハンムラビ王は、領土内の秩序を維持するために、犯罪に対して同等の罰を与える原則を含むハンムラビ法典を編纂し、中央集権的な国家の基礎を築きました。象形文字はエジプト文明、十二表法は古代ローマの法典であるため、これらとは区別が必要です。
問13	答え 4 マルティン・ルター	十字軍の失敗などによってカトリック教会の権威が低下する中、16世紀にドイツのルターが「九十五ヶ条の論題」を発表し、教会の腐敗を批判しました。これがきっかけとなり、聖書を信仰のよりどころとするプロテスタントが誕生する宗教改革へと発展しました。